

(公社) 日本地すべり学会関東支部 平成 29 年度第 1 回現地検討会 開催報告 —平成 28 年 9 月台風 13 号に伴う集中豪雨による土砂災害—

1. 実施概要

関東支部では、「土砂災害現場を実際に歩き、地形・地質・土砂移動現象をじっくり観察し、参加者で議論する」ことをテーマに年 2 回の現地検討会を開催しています。今回は、群馬県環境森林部森林保全課、利根沼田環境森林事務所並びに国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所の協力のもと、昨年 9 月の台風 13 号豪雨で発生した山腹崩壊・土石流災害地において現地検討会を行いましたので、報告します。

- (1) 開催日：平成 29 年 8 月 3 日（木）
- (2) 開催場所：群馬県沼田市利根町柿平地区
- (3) 主催：(公社) 日本地すべり学会 関東支部
- (4) 協力：群馬県環境森林部森林保全課・利根沼田環境森林事務所・国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所
- (5) 参加人数：19 名（うちオブザーバー参加 4 名）

2. 現地検討会の内容

柿平地区では平成 28 年 9 月 7 日の最大時間雨量 73mm、最大 24 時間雨量 125mm の豪雨を起因として、3 箇所で山腹崩壊が発生しました。そのうち 1 箇所では土石流となって流下し、人家半壊 2 戸、一部損壊 2 戸、市道・林道への土砂流出の被害が発生しました。当地域の地質は、上流域では石炭紀～二畳紀の戸倉オフィオライト、下流域ではジュラ紀の砂岩・頁岩層からなる岩室層から構成されています¹⁾。また、凹地には二次堆積物と推定される軽石層が 1m 以上の層厚で堆積しています。山腹崩壊は、この軽石層で発生しており、途中、主に火山岩礫を含む溪床堆積物を侵食しながら流下しました。

検討会ではまず、屋内にて利根沼田環境森林事務所担当者から上流域における山腹崩壊の発生状況と、治山事業における対策工計画及び進捗状況をご紹介頂きました。続いて場所を現地に移し、利根川水系砂防事務所担当者から土石流の氾濫状況と、砂防事業における応急対応及び恒久対策工事についてご説明を頂きました。その後、ベテランから若手までの参加者全員で、ハンマーで石を叩き、捻じり鎌で軽石層を削りながら崩壊地の踏査を行い、崩壊発生メカニズムについて議論しました。

本検討会では、近年、頻発する火山砕屑物分布域での土砂移動現象と、治山事業が行われている上流域から、砂防事業が進められている下流域までの流域全体での土砂災害対策について見学することができ、非常に有意義な機会となりました。

3. おわりに

関東支部では、今後も現場に密着した現地検討会や学

生・若手技術者の育成をテーマとした活動を実施していく予定です。

最後に、本現地検討会の開催にあたり、御協力頂いた群馬県環境森林部森林保全課、利根沼田環境森林事務所並びに国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所の関係者各位には大変お世話になりました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 群馬県地質図作成委員会 (1999)：群馬県 10 万分の 1 地質図。



写真-1 治山事業に関する講義



写真-2 砂防事業に関する現地説明



写真-3 現地踏査状況

(関東支部幹事会 滝口 潤・齊藤雅志・林 一成)